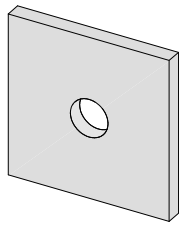
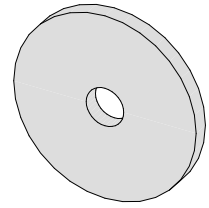


(公財) 日本住宅・木材技術センター



見落としがちな「座金」について

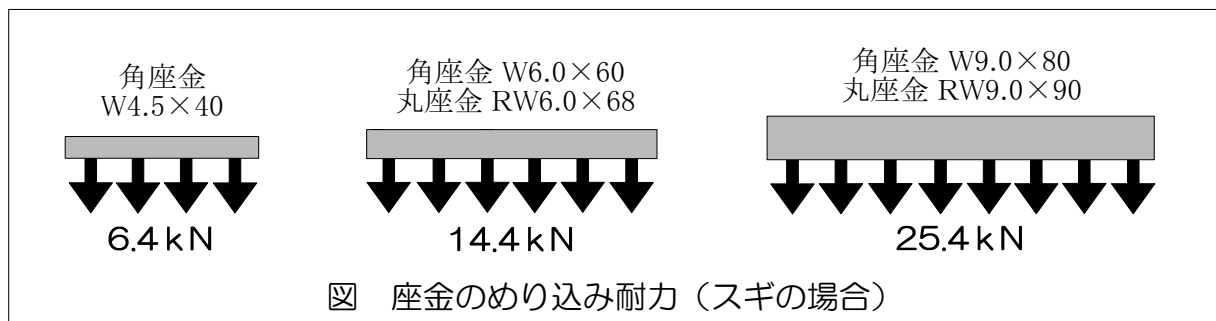


接合金物の中で以外と見落としがちなのが「座金」です。アンカーボルトに使用する座金であれば土台が動かないようにしっかり固定するために、通常W4.5×40の角座金が使用されます。ただし、座金には、使用する限界があります。

例えば、1階の耐力壁の柱であれば、地震や台風などで柱のほぞが抜けないようにコーナー金物やホールダウン金物などで土台を介して緊結する方法があります。この時に重要なのがアンカーボルトに使用する座金の耐力などです。座金の耐力は、土台を介して緊結する金物の耐力以上のものが必要となります。

一般的に使用されている角座金W4.5×40の耐力は下図のとおり6.4kNですが、コーナー金物やホールダウン金物などは、座金の耐力よりも小さい金物としなければなりません。6.4kNを超える金物を使用する場合は、その上のサイズの座金を使用します。

当センター接合金物規格には、角座金と丸座金があります。角座金はW4.5×40、W6.0×60、W9.0×80、丸座金はRW6.0×68、RW9.0×90の5種類です。



建設省告示第1460号の表三では、10kNを超えるホールダウン金物などを使用する場合、直接基礎から緊結しなければならないとしています。これは土台を介して緊結する金物によっては、土台がせん断破壊や曲げ破壊をおこさないために定めた規定です。

座彫り座金でも面積が大きくなると、インパクトドライバーなどによる座彫りが困難になる場合があります。無理に座掘ると木材が圧密してアンカーボルトが破断したり、インパクトドライバーに負荷がかかりすぎて故障の原因になりますので、予め座掘ってから取り付けるようにします。

座金には、座彫りが大きくなるのを避けるために、土台の上面をフラットに納める座金があります。当センターにおいても、このような座金を認定していますので、当センターHP「木造建築物用接合金物承認・認定」の「認定一覧表」を参照してください。

問い合わせ先：(公財) 日本住宅・木材技術センター 認証部
電話：(03) 5653-7581